

コロナ禍のなかでの地域活動 (新しい地域活動への取り組み)



山鼻町内会連合会会長 阿部 貞夫

中国武漢で新型コロナウイルス感染症が発生したのが一昨年 1 2 月。そして、昨年 1 月末、日本でも発生が確認され、それからほぼ 1 年が経過しました。その後、2 月になり横浜港での大型クルーズ船内での感染拡大が発生し、さらに、その後、全地球的に感染拡大し現在に至っています。

まさに、この 1 年間は新型コロナウイルスの感染防止対策に終始させられた年であったと言っても過言ではありません。この間、町連行事はもちろん、各単位町内会、ネットワーク傘下各団体の事業はほとんど中止・延期を余儀なくされました。地域の皆様方には大変ご迷惑をおかけいたしました。

残念ながら、新型コロナウイルスの感染は全世界的に未だ収束には至っておりません。疫学者の先生方のご意見では、収束するには、最低 2～3 年は要するのでは、と言っている方もいますし、さらに、新しい変異ウイルスの出現も想定されます。

人類とウイルスの関係(闘い)は、人類生存の永遠の課題だと言われています。ある種の環境問題でもあります。ウイルスの蔓延は、野生動物(寄主)の体内に寄生していた未知のウイルスが人間に住処(すみか)を移していることにあるそうです。自然破壊による野生動物との接触機会が増え、生物多様性の後退によるものであると言われています。(某紙朝刊、危機の否認、中島氏 1/26 記)

このことに人間は早く気づき環境問題に取り組むことが必要です。

昨今、新型ではなく、すでに「変異種」が発生し、日本各地で感染が報道されている状況です。このような現実の中で、我々は今後どのようにコロナウイルスと、または「コロナ禍」と対応したらよいか、今日の、そして明日からの課題なのです。まさに「With Corona ウイズ コロナ」の渦中で「新しい生活様式」に取り組まなくてはならないのです。

現在(令和 3 年 2 月 8 日)、北海道では、「新型コロナウイルス感染症への集中対策期間」が発令されており、より慎重な対応が要請されています。

このような状況の中で、いかに地域活動(町内会活動、福祉活動、体育活動、育成活動など)を推進していくべきか、さらに地域の人々の絆をどう保つべきかなど、困難な問題が山積しています。

家に居ろ、人に会うな、会食はするな、三密を守れ・・・等々、閉塞感に満ちた社会の中で、いかに地域の人々との関係が密に保たれるよう(密でなくとも粗にならないよう)努力していかなければならないと思います。

コロナ禍のなかで、いかに**地域の絆をつないでいく**かが、それぞれの**命を守る行動**につながると思います。

社会福祉部

日常の福祉活動のために

少子高齢化が進む中、だれもが安心して暮らせるまちづくりを目指して、山鼻地区福祉のまち推進センターの事業に協力し、福祉全般の向上に努めました。

12月14日には、中央区社会福祉協議会から講師を迎え「コロナ禍の地域福祉活動について～新・福まちスタイル～」をテーマに「福まち町内会役員研修会」を開催する予定でした。しかし、このころ市内で新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いていたため、大勢が集まり感染リスクが高くなる研修会の開催は断念しました。準備していた研修資料は、後日、参加を予定されていた皆さんに配布し、日頃の活動の参考にしていただくことにしました。

総務部

コロナ禍での総会～初めての書面開催～

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、4月7日に国が緊急事態宣言を発出したことに伴って、5月31日まで感染リスクが高い集会の自粛が求められことになりました。これを受けて、この間の定例役員会議及び会長会議は中止することとし、令和元年度の事業及び決算報告、令和2年度の事業計画及び予算を審議する定期総会の開催方法について改めて検討しました。規約第10条で定期総会は毎年5月に開催すると定めていることから、例年通りの懇親会を含めた山鼻会館での開催は断念。あらかじめ伺っていた総会出席予定者に議案を送付して表決書を返信していただくという、書面開催を初めて試みることにしました。おかげさまで、すべての議案について過半数の賛成をもって可決することができ、皆さまのご協力で改めて感謝いたします。

その後、新型コロナウイルス感染症の流行は収束する気配を見せず、楽しみにされていた方も多いと思いますが、恒例の新年交礼会についても、高い感染リスクが指摘されている飲食を伴うことから、やむを得ず中止とさせていただきます。

防火部／防犯部

声を掛け合い、安心・安全なまちづくりを

12月3日（木）に、札幌方面南警察署及び中央消防署山鼻出張所の職員を招き、各町内会防火部、防犯部及び地域安全関係者による合同研修会を開催する予定で準備を進めていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の市中感染状況が悪化し、11月17日から始まった北海道の集中対策期間が12月25日まで再延長（その後2月15日まで再々延長）されることになったため、急遽、研修会の開催を中止することにしました。

関係者が集まり、防火・防犯に係る最新情報の共有を行うことはできませんでしたが、これからも声を掛け合い、地域全体で安心・安全なまちづくりを行っていきましょう。

交通部

ひとり一人が交通ルールやマナーを意識して守ることが大切

スケアード・ストリート教育技法による自転車安全教室（主催：札幌市、札幌方面南警察署など）が、山鼻地区で初めて開催されました。スケアード・ストリート教育技法とは、「恐怖の直視」のことで、スタントマンが実際の事故を再現する自転車安全教室です。大きな衝撃音とともに車と自転車などが衝突し、激しく人が倒れる様子を間近で見て、参加された多くの方が交通事故の怖さを実感され

たと思います。

この1年は、コロナ禍の中、地域で一丸となって取り組む街頭啓発などの交通安全行事を中止せざるを得ない状況となりましたが、交通事故の恐ろしさを実感する自転車安全教室への協力は、日頃からひとり一人が交通ルールやマナーを意識して守ることの重要性を再認識する機会となりました。

◆山鼻町連等の交通安全行事◆

① スケアード・ストレート教育技法による自転車安全教室に協力

10月15日（木） 約65人参加



② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した行事

- ・交通安全・防火・防犯・清掃のつどい
- ・自転車安全利用教室
- ・秋の交通安全街頭啓発
- ・交通安全講話会

保健衛生部

地域に根差した活動でまちの環境衛生事業を推進する

7月8日（水）保健衛生部長会議を開催し、令和元年度事業報告を行うとともに、令和2年度事業計画について協議しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため「新しい生活様式」の実践が求められるようになり、移動のための車内や見学先、昼食会場などで密になることが避けられないことから、従来のように施設見学会を実施するのは困難であると意見が一致しました。

リサイクルに対する意識を高めるなど、施設見学会による有意義な体験の機会を失うのは残念でしたが、何よりひとり一人の健康が大切です。中央清掃事務所、中央保健センター等の関係機関と連携し、地域住民の疾病予防並びに環境衛生事業を推進するため、各自が感染防止に留意しつつ、地域に根差した活動を行いました。

体育部

コロナにめげず頑張りました！ ～少年野球チームを表彰～

新型コロナウイルス感染防止のため、多くの行事が中止になりましたが、11月7日、山鼻地域の少年野球チームへ山鼻町内会連合会会長杯の授与が行われました。

本年度の山鼻地区少年野球大会リーグ戦の戦績に基づいて、阿部山鼻町内会連合会会長から各チームへ優勝杯が、町連体育部長から参加賞・記念品が贈られました。表彰式は、各チームの監督、コーチ、選手、父母代表などが参加し、選手の健闘を讃えました。コロナ禍の厳しい状況の中で、選手を支えてくださったご父母や指導された監督・コーチの方々に心から経緯を表します。

<令和2年度の順位>

《優勝》中南イーグルス 〈2位〉幌南ファイターズ 〈3位〉伏見カーディナルス、山鼻アカシアーズ



女性部

「赤い羽根街頭募金」活動に参加しました

新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から、街頭募金活動も例年とは異なるスタイルで行われることとなり、参加に当たって事務局から、①マスク、フェースシールド、手袋の着用②大声の呼びかけはしない③活動従事者はごく少数で一定の距離を保つ④赤い羽根は寄付した方に直接シートから取ってもらう、などの留意点が示されました。

従来は、連合女性部の各ブロックから2名ずつ参加していましたが、今年は全体で2名としました。また、活動時間も2時間から1時間となりました。

当日は、午前10時から中央区役所玄関の左右に立ち、通行している方ともソーシャルディスタンスを保ちながらポスターを示すなど、静かな呼びかけをしました。何人かの方が足を留め協力してくださいました。コロナ禍の中で思うような活動ができずにいますが、少しでも協力できてよかったです。

